

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
新潟高度情報 専門学校	平成19年1月9日	石澤 直樹	〒950-0084 新潟県新潟市中央区明石1-3-12 (電話) 025-241-0133			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
新潟高度情報 学園	平成10年3月25日	梶坂 昌業	〒950-0084 新潟県新潟市中央区明石1-3-12 (電話) 025-241-0133			
目 的	本校は、学校教育法に基づき、技能者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた、人間性豊かな技術者及び実務者を育成することを目的とし、実践型の授業を中心に企画力や行動力を養い、情報システムに関する幅広い知識と高度な技術を習得し、情報システムの企画、立案、設計、構築、保守が行えるIT業界・職種で活躍できる人材を育成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課 程	情報工学科	4年(昼)	単位時間 (又は単位)	—	平成22年文部科学 大臣告示第249号
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,860 単位時間 (又は123単位)	1,290 単位時間 (又は44単位)	0 単位時間 (又は単位)	540 単位時間 (又は12単位)	0 単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	17人	7人	2人	9人		
学期制度	■前期：4月 1日～9月20日 ■後期：9月21日～3月31日			成績評価	■成績表 (有)無 ■成績評価の基準・方法について 期末試験または課題、平常点 及び出席点による総合評価	
長期休み	■学年始め：4月1日～4月14日 ■夏 季：8月1日～8月31日 ■冬 季：12月24日～1月7日 ■学 年 末：3月20日～3月31日			卒業・進級条 件	・年間学業出席率が90%以上 ・成績評価が全てC評価以上 ・学費、諸経費が未納でない	
生徒指導	■クラス担任制 (有)無 ■長期欠席者への指導等の対応 保護者連絡及び本人とガイダンス			課外活動	■課外活動の種類 外部セミナーへの参加 近隣小学校に出前授業 ■サークル活動 (有)無	

就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等 IT系企業、IT業界</p> <p>■就職率※¹ 100%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※² 100%</p> <p>■その他（任意）（平成〇年度卒業者に 関する平成〇年〇月時点の情報）</p>	主な資格・検定	<p>基本情報技術者試験 応用情報技術者試験 TOEIC Test</p>
中途退学の現状	<p>■中途退学者 1名 ■中退率 5%</p> <p>平成26年4月1日在学者 18名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年3月13日在学者 17名（平成27年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 情報系以外の新たな分野への挑戦</p> <p>■中退防止のための取組 学生相談窓口として臨床心理士にカウンセリングを行う環境を提供 対話を重視した学生との積極的なコミュニケーション</p>		
ホームページ	URL: http://www.nht.ac.jp/		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

企業・業界団体等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、必要となる最新の知識・技術・技能を反映する為「教育課程編成委員会」を年2回実施する

委員会での意見を十分に生かした授業科目の開設、カリキュラムの改善、その他の教育課程の編成を定期的に行うことで、企業・産業界の動向・展望を察知し、社会の変化スピードに合わせた人材を輩出する

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年3月13日現在

名 前	所 属
本間 善夫	日本コンピュータ化学会
折居 進	株式会社 イーエムエス新潟
守橋 主	システムアナライズ 株式会社
後藤 彰宏	株式会社 マルス
石澤 直樹	新潟高度情報専門学校
亘 英一	新潟高度情報専門学校
山田 賢一	新潟高度情報専門学校
樋口 直武	新潟高度情報専門学校
岩野 賢一	新潟高度情報専門学校
相馬 稔	新潟高度情報専門学校

(開催日時)

第1回 平成26年11月14日 16:00～17:30

第2回 平成27年 1月23日 16:00～17:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業からの実施提案、学校からの実施提案それぞれの意見を考慮し、また学年・時期に 目指す業種・職種に合わせ、学生に段階的に効率よくテーマを用意し取り組ませる。例として年度当初から企業等からの派遣講師による校内実施の実習・演習授業を展開。年度後半からは上記にプラスし、校外で実施されるインターン実習を実施

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
卒業研究	プロジェクトチームを組み、集大成としてシステム又はアプリケーション作成を行い、発表する	株式会社イーエムエス
情報リテラシ ビジネスアプリケーション	企業内で行う新人研修をイメージした、ITリテラシ教育実習、	株式会社マルス
キャリアデザイン	インターン実習の実施とともに、業界での経験などの講演を行っていただく	株式会社マルス 株式会社イーエムエス

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教職員は、その職責を遂行するために各専門分野に関連した実務に関する知識、技術及び技能並びに、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修等を受講し、絶えず研究と修養に努めなければならない

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年3月13日現在

名 前	所 属
後藤 彰宏	株式会社 マルス
石澤 直樹	新潟高度情報専門学校長
亘 英一	新潟高度情報専門学校 教務課長
山田 賢一	新潟高度情報専門学校 教務課長
金子 貴之	新潟高度情報専門学校 教務課長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.nht.ac.jp/hyoka.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.nht.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程情報工学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			コンピ ュー タ テ ク ノ ロ ジ	基本情報技術者試験のテクノロジー分野（午前問題）についての知識の習得	1 前	60	4	○		
○			ス ト ラ テ ジ マ ネ ジ メ ン ト	基本情報技術者試験のストラテジ・マネジメント分野（午前問題）についての知識の習得	1 前	60	4	○		
○			ア ル ゴ リ ズ ム 基 礎	問題を論理的に構造化していく基礎技術力の習得	1 前	60	4	○		
○			J a v a 基 礎	J a v a 言語の理解を通じたプログラミング技術の習得	1 前	60	2		○	
○			情 報 リ テ ラ シー	コンピュータの仕組みの理解及び基本操作の習得	1 前	60	2		○	
○			イ ン タ ー ネ ッ ト 通 信 概 論	インターネットの仕組みを理解し、自分で日常生活や仕事に、それを活用できる知識の習得	1 前	30	2	○		
○			基 礎 数 学	高等学校で履修する数学範囲の基礎内容を学ぶ	1 前	30	2	○		
○			プ ロ グ ラ ミ ン グ 1	Java アプレットを用いて、プログラミングの基礎技術を習得する	1 前	30	1		○	
○			英 語 1	単語と英会話の基礎を習得する	1 前	30	2	○		
○			情 報 基 礎 1	情報活用や情報処理の基礎技術を、Word、Excel, PP 等のソフトを通して習得する	1 前	30	2	○		

○		HTML/CSS	HTML におけるタグ記述やスタイルシートの使い方の習得	1 後	30	1		○	
○		JavaScript	JavaScript の使い方の習得	1 後	30	1		○	
○		コンピュータアーキテクチャ	基本情報試験の午後問題に対応できる知識の習得	1 後	60	4		○	
○		論理数学	情報科学の基礎である、集合と論理の基礎を学ぶ	1 後	30	2		○	
○		オペレーションズリサーチ	線形計画法等の基本的技法を理解し、最適解を導き出す手法を学ぶ	1 後	30	2		○	
○		システム設計	コンピュータシステムの理論的設計方法を学ぶ	1 後	30	1		○	
○		プログラミング2	GUI プログラミング、配列、メソッドの基礎的利用方法を習得する	1 後	30	1		○	
○		スポーツ科学	運動等スポーツの効果を科学的に検証する方法を学ぶ	1 後	30	2		○	
○		英語2	英文法の基礎を習得する	1 後	30	2		○	
○		自由研究1	帝京大学科目のレポート課題作成を中心に、各学生の自主性を重んじた研究補助を行う	1 通	90	3		○	
○		データベース	データベース(SQL)の知識・技術の習得	2 前	60	2		○	
○		ネットワーク技術	ネットワークの知識及びネットワーク機器などの設定技術の習得	2 前	60	4		○	
○		Linux	Linux サーバ構築	2 前	60	2		○	

○		線形代数	行列を中心とした理学・工学に必要な数学知識の基礎を学ぶ	2 前	30	2	○		
○		微分積分1	情報科学に必要な微積分の基礎を学ぶ	2 前	30	2	○		
○		英語コミュニケーション	コミュニケーションを中心に、ビジネスでの英語表現を学ぶ	2 前	30	1		○	
	○	西洋史	日本及び世界の現状を、歴史的視点から認識する方法を習得する	2 前	30	2	○		
	○	社会学	社会を、人々が織りなすネットワークとしてとらえ、現代社会の仕組みを構造的に理解することを目的とする	2 前	30	2	○		
○		数値解析法	数学知識とプログラミング技術を活用し、数値に基づく解を求めるプログラム構成方法を習得する	2 前	30	2	○		
○		プログラミング3	Java 言語を用い、オブジェクト指向を生かした大規模ソフト開発の基礎を学ぶ	2 前	30	1		○	
○		情報基礎2	情報基礎1で学んだ技術の、高度な活用技術を習得する	2 前	30	2	○		
○		組込み基礎	組込みシステムの仕組みを及びプログラム制御技術の習得	2 後	60	2		○	
○		コンピュータ英語	コンピュータに関連する英語を中心とした英語の理解	2 後	30	2	○		
○		微分積分2	情報科学に必要な微積分の応用を学ぶ	2 後	30	2	○		
○		離散数学	有限体と整数論の入門レベルの内容を学び、符号の仕組みを理解する	2 後	30	2	○		
○		コンピュータシミュレーション概論	数値解析法を前提として、コンピュータを使ったシステム開発技術を習得する	2 後	30	1		○	

○		コンピュータアーキテクチャ	コンピュータの構成と動作原理、制御装置の方式や演算装置、並列処理等を学ぶ	2後	30	1	○		
○		情報科学演習1	COMET II 及び CASL II を利用し、CPU の言語処理方法を理解する	2後	30	1	○		
○		情報科学演習3	TCP/IP 及びネットワークの理解を深め、サーバ構築方法を習得する	2後	30	1	○		
○		論理回路	数の表現、論理記号、ブール代数等を理解した後、論理実現のための回路設計方法を学ぶ	2後	30	2	○		
○		情報デバイス工学	LSI の仕組みや役割を理解し、半導体の基礎及び情報機器への活用を学ぶ	2後	30	2	○		
○		自由研究2	帝京大学科目のレポート課題作成を中心に、各学生の自主性を重んじた研究補助を行う	2後	90	3	○		
○		心理学	心理学における臨床実験方法を学ぶ	3前	30	2	○		
○		法学	具体的事例を基に法知識を身につけ、実生活に応用する	3前	30	2	○		
○		国際文化	日本近現代史を題材に、物事の多方面からの見方を学ぶ	3前	30	2	○		
○		実用英語	リスニング・スピーキングを中心に学び、TOEIC450 点以上を目標とする。	3前	30	2	○		
○		英語総合	リーディングを中心に学び、TOEIC450 点以上を目標とする。	3通	60	4	○		
○		計算理論1	正規表現及びオートマトンの理解に grep ソフトウェアを使用し、それらの使用環境について学ぶ	3前	30	2	○		
○		電気回路1	R、C、L の各素子による回路構成を学び、任意の場所での電圧と電流の解析を行う	3前	30	2	○		

○		情報科学演習2	マルチメディアモデリング演習として、画像フィルタや処理技術を習得する	3前	30	1	○		
○		データ伝送概論	データ伝送の仕組みを理解し、HDLC手順、OSI参照モデルによる伝送理論を学ぶ	3前	30	2	○		
○		計算理論2	計算理論1を前提とし、句文法構造やチューリングマシンについて学ぶ	3前	30	2	○		
○		電気回路2	電気回路1を前提として、直列・並列共振回路等について数学的知識を以て理解する	3前	30	2	○		
○		情報科学演習4	UMLについて学び、それらを利用した簡単な情報システムのモデリング演習を行う	3前	30	1	○		
○		情報ネットワーク概論	A/D信号、ネットワーク接続技術、アーキテクチャやセキュリティについて学ぶ	3前	30	2	○		
○		確率統計1	数理統計学の基礎（記述統計・確率分布）を学ぶ	3後	30	2	○		
○		情報理論	情報理論を構成する数学的モデルを基に、符号化／復号アルゴリズム等を学ぶ	3後	30	2	○		
○		プログラミング4	ファイル処理の基礎技術を学び、例外処理等実用に耐えうるプログラム作成術を習得する	3後	30	1	○		
○		情報通信工学	無線・有線通信技術・インターネット技術について十分理解し、実用できる能力を身につける	3後	30	2	○		
○		キャリアデザイン	就職活動及びビジネスマナーの習得	3後	60	3	○		
○		IT実務演習	提携企業内での研修	3後	60	2	○		
○		確率統計2	確率統計1に続き、連続統計や推測統計の初歩（推定・検定）を学ぶ	3後	30	2	○		

○		形式言語学	自然言語やプログラミング言語の構造と意味に注目し、文章解析・文章合成いわゆるコンパイラ等処理系の知識を習得する	3 後	30	2	○		
○		コンピュータグラフィクス概論	CGの基礎理論を理解し、3次元CGの定義及び基礎的な技法（レンダリング法等）を習得する	3 後	30	1		○	
○		自由研究3	帝京大学科目のレポート課題作成を中心に、各学生の自主性を重んじた研究補助を行う	3 後	90	3		○	
○		システム研究	自らの研究内容を決定するための、卒業研究への過渡的授業	4 前	120	4		○	
○		電子回路1	ダイオード・トランジスタ等電子デバイスで構成される各種電子回路の動作原理を学ぶ	4 前	30	2	○		
○		デジタル信号処理1	信号のサンプリング、量子化から周波数特性等信号処理の基礎を学ぶ	4 前	30	2	○		
○		半導体工学	半導体デバイスの動作原理と電気的特性を理解し、電子物性について学ぶ	4 前	30	2	○		
○		情報と職業	ICTの視点から、情報に係わる職業人としてのあり方を考え、論述する	4 前	30	1		○	
○		電子回路2	電子回路1の内容を前提とし、アナログ回路の各種応用技術について学ぶ	4 前	30	2	○		
○		デジタル信号処理2	フーリエ解析、サンプリング定理やデジタルフィルタ等について学ぶ	4 前	30	2	○		
○		技術者の人間学	技術者で特に問題となっている人間心理に注目し、特にコミュニケーションや感情処理に焦点をあてる	4 前	30	2	○		
○		卒業研究	4年間の学習から自発的な研究を実施し、その成果を発表する	4 後	450	10			○
	○	教職論	教師という職業の概要（職業の意義・役割・資質や資格等）を、様々な側面から理解を深める	2 前	30	2	○		

		○	教育心理学	発達・適応・学習・教育評価の4領域で構成。人間発達の基本を学び、生徒理解と生徒の発達支援に活かす	2 前	30	2	○		
		○	教育史	教育と学校について、その思想と制度の変遷を学び、のち教育課程と教科書の時代的変遷を追う。	2 後	30	2	○		
		○	教育制度論	法律で定められている教育制度の骨格（条例・規則での定めを含む）を学び、学校組織や教育活動を考える	2 後	30	2	○		
		○	教育の方法と技術	授業設計の体系的アプローチを理解し、選択領域で個別学習教材を自作、上記アプローチを適応させる	3 前	30	2		○	
		○	生徒指導・進路指導論	今日の子供たちの実態、子供たちを取り巻く環境状況から、生徒指導・進路指導のあり方を学ぶ	3 前	30	2	○		
		○	特別活動の指導法	学校教育の指導の一つ、集団活動を基盤とした特別活動の意義や狙い、指導の実際を学ぶ	3 後	30	2	○		
		○	教育相談	学校における教育相談とは何かを最初に学び、最終的に臨床心理やカウンセリングの基礎理論・技法を学ぶ	3 後	30	2	○		
		○	情報科教育法1	高校の普通教科及び専門教科の『情報』について教育目標と内容を理解し、情報教育の教科教育法を学ぶ	3 前	30	2	○	△	
		○	情報科教育法2	情報科教育法1に続き、教員としての指導法や授業設計、表現力を養う	3 後	30	2	○	△	
		○	教育実習指導	教育実習に先立ち、実習に必要な心構えや基礎知識を学び、授業実践に必要なオリエンテーションを行う	4 前	30	1		○	
		○	教育実習	教職課程の総仕上げとして、各自が実習校において「教師」の仕事を経験し、教師となるために必要な事柄を学ぶ	4 後	90	2			○
合計				74 科目（教職なし） 86 科目（教職あり）		3,270 単位時間（156 単位） 3,690 単位時間（179 単位）		教職なし 教職あり		